

巨額の貿易赤字に思う

計量分析ユニット 需給分析・予測グループ 研究主幹

柳澤 明

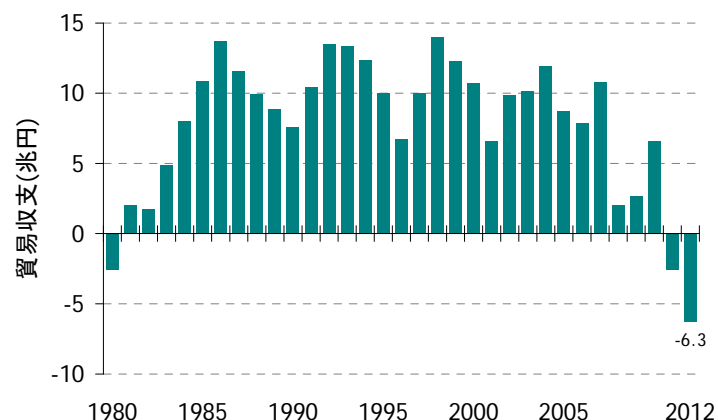
1か月1兆円の大赤字

東日本大震災以降、貿易赤字のニュースに頻繁に接するようになってきている。財務省の貿易収支速報によると、2012年11月は単月で9,534億円もの赤字だった。1兆円に迫るこの巨額は、季節的な悪化要因があった2012年1月(これも震災後)を除くと、統計が比較可能な過去32年間で最大の赤字額であ

る。2012年は1～11月の累計でも6.3兆円の赤字と、昨年の2倍以上の規模になっている。

このような統計を目にするにつけ、長らく日本の貿易構造を成してきた加工貿易とその黒字による経済成長が終焉を迎えようとしているのでは？と思ひ煩うのは杞憂に過ぎないのだろうか？

図1 貿易収支



注: 2012年は1～11月 出所: 財務省「貿易統計」

対中国・EU輸出は4.1兆円減

1ドル80円超の円高に加え、政冷経冷とも評される日中間の厳しい情勢とユーロ圏の経済危機を反映して、対中国、及び対欧州連合(EU)向け輸出は大きく減少している。2012年1～11月の貿易収支は2010年から12.9兆円も悪化しているが、実にこの3分の1にあたる4.1兆円分は、これら2地域向け輸出額の減少によるものだ。

これらの落ち込みが、ごく近い将来に元のように急回復すると考えるのは、楽観的に過

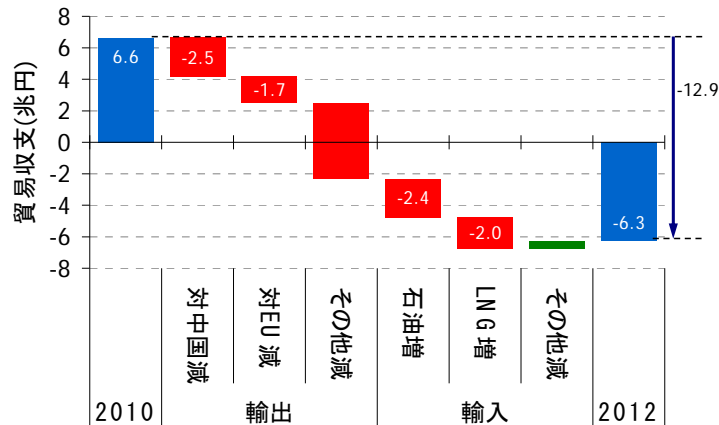
ぎよう。しかし、中国との関係は、両国の新リーダー登場などを契機に最悪期を脱する可能性もある。「この世に明けぬ夜は無し」とも言うように、ヨーロッパ経済も欧州中央銀行などの取り組みが徐々に奏功してきているようでもある。これらに加え、(ちょっと急すぎる感があるが)為替相場がこの1か月で5円/ドル安となったように、行き過ぎた円高が修正されてゆけば、日本の輸出が再び増加に転じることも可能性ゼロではない(?)

石油・LNG輸入は対中国・EU輸出以上のGDP下押し要因

輸出側では将来への希望がかすかに望まれるが、輸入側も同じ、とは残念ながら言い難い。震災以降、化石燃料の輸入量が増大している。また、その日本の需要増に一部は起因

して、価格も上昇している。これらにより、石油とLNGの輸入額増分は4.5兆円にまで膨張している。目立って報道されていないので、あまり認知されていないようだが、これは対中国・EU輸出減少を上回るほどの貿易赤字の要因となっている。

図2 貿易赤字化への寄与(2010年対2012年1～11月)



注: 2012年は1～11月 出所: 財務省「貿易統計」より算出

それってマクロな話でしょ?

いえ、わたしたちの暮らしにも関係してる

貿易赤字は「日本全体のマクロな話だから～」、「国際展開している会社に勤めているわけではないから～」、あるいは「働いていないから～」として、自分の生活には影響ない、と考えているならちょっと待って欲しい。貿易収支を構成項目に含む経常収支は、家計の貯蓄・投資バランスと政府の財政バランスの和に定義的に等しい。あるいは、国内の貯蓄は経常収支と投資の和に等しいと表すこともできる。つまり、経常収支と貯蓄は表裏の関係にある。やや荒っぽい言い方をすれば、経常収支の悪化は、貯蓄の減少が投資の減少(あるいはその両方)によって穴埋めしなければならないのだ。

内閣府の国民経済計算確報によると、震災前の2010年には8.4兆円(1人あたり6.5万円)だ

った貯蓄(繰入)額は、2011年には1.9兆円(同1.5万円)にまで減少した。2012年にはマイナス(取崩)になる可能性もある。貿易赤字の重荷は、所得や物価を通じて、企業から家計まで今後徐々に波及してゆくことになる。余分に燃料を使っているのだから、直接にせよ間接にせよ、その負担から逃れることはできない。

輸出の急

このままでは、海外からの借金に継続的に頼ってゆか、投資を減らすことで収支をバランスさせてゆく必要に迫られよう。日本の活力、競争力、そして安全を保つために、設備投資やバラマキではない適切な公共投資は不可欠であるし、次の世代に莫大な借金を残したくないのだが...

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp